

平和の灯補修試験着手

県コンクリ診断士会 方法市に提案へ

県コンクリート診断士会(広島市中区)は25日、平和記念公園(同)にある「平和の灯」の補修に向け、適切な方法を調べる試験をボラ

ンティアで始めた。27日まで続け、市に補修や維持管理の方法を提

案する。

初日は約10人が参加。コンクリート製の台座に高圧洗浄機で水を吹き付け、表面の汚れやコケを落とす作業をした。26、27日は台座に汚れが付きにくくするための補修材など

を試して効果をみる。

4月末までをめどに市へ提案する。

平和の灯は、丹下健三氏の設計で1964

高圧洗浄機で「平和の灯」の台座の汚れを落とす作業員



年8月に完成。建設趣意書によると、炎は世

界の核兵器がゼロになるまで燃え続けるとされる。昨年5月に同会がした台座の調査では鉄筋がむき出しになってさびたり表面がひび

割れたりした箇所が複数見つかったという。

鈴木智郎副会長(66)は「世界中の観光客が注目する場所であり、広島技術者として維持の役に立ちたい。8月6日まで補修を終えるのが理想だ」と話した。(長久豪佑)